



もり 森林の風

特定非営利活動法人

森林の風

会長 蒲田 博

2010年6月発行

第4号

だより

「まちの木こり人育成講座」開講中

事務局 瀧口邦夫

森林施業NPO法人“森林の風”の基幹事業である「まちの木こり人育成講座」は今年で5年目を迎えました。さらに充実しながら好評開催中です。森林再生には観察、調査から施業計画、林業の実践が欠かせません。知識・技術はセミプロ級を目指します。

「まちの木こり人(びと)育成講座」というネーミングは、単なる一過性の参加型イベントではなく、いっばしのプロというわけにはいかないにしろ、施業の企画、準備、実践等林業のひとつとおりが出来る人材を育成したいと願ってのことです。

同時に、本講座は会員のレベルアップのための講座でもあります。講師として伝えていく一方で、各地の専門家を招くなど学び続けています。

今年は、冊子「水源の森プログラム」改訂のため会員総力で勉強中です。夏ごろには、入門編、上級編、森林調査編の3部が完成するでしょう。お楽しみに！

森にも多くの関わり方がありますが、熱くなることが継続へのステップ！参加者の方と共に、森について考え、携わっていきたいと思います。

「色々学んだ技術を今後になんか生かしていきたい。今年度は指導員の側になり、指導員としての勉強もしていきたい。」と充実した様子の研修参加者と、会長はじめ森林の風指導員。



森林施業 NPO法人  もり
森林の風

連絡先 / 〒512-0933 三重県四日市市三滝台4丁目15-7 TEL059-321-7719 携帯電話090-9663-4088

<http://www.morinokaze.info> *詳しくは、ホームページまたは上記まで問合せください。

SIDE1. 植物図鑑

ヤマボウシ

(落葉高木)

5月の末から6月にかけて、山の中にけっこう大きな白い花をたくさんつけた木に出会うことがあります。



これはヤマボウシといって最近では庭木にもよく使われているようです。

もともと、白くて大きな花びらのようなものは総苞片(そうほうへん)といって花びらではありません。ヤマボウシの花自体があまりにも控えめで地味なものでムシたちに無視されるから(なんちゃって)、けっこう派手で大きな花のように見せてるんですかね。純白のハナミズキってどこですか。

ハナミズキの花びらのようなものも総苞片ということをご存知ですね。

実際、ややこしいことにハナミズキそっくりのベニヤマボウシもあります。

秋になるとヤマボウシの実は赤く熟してたべられますよ。サルも大好きです。

【裏川】

通常総会を開催

2010年度 NPO 森林の風 通常総会が5月23日に開催されました。

冒頭、蒲田会長より「今後活動はますます活性化されると思われる。全員の協力が一層求められるため、協力をよろしく願いたい」と挨拶がありました。

その後、2009年度の事業報告、収支決算報告、また2010年度の事業計画の説明等が事務局より報告され、全会一致で承認されました。その中で役員の増員が話し合わせ(定款では3人~5人で、現在3名の理事が運営にあっている)新たに2名の理事が選任され計5人の役員が決まりました(内1名は会長)。今後、この体制で活動を続けていきます。皆様のより一層のご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

報告 Report 水源の森フォーラム 2010 を開催

【清水】

5月29日(土)三重県環境学習情報センターにおいて、三重県主催、森林の風企画運営による水源の森フォーラム2010が開催されました。フォーラムの開催は、活動を開始してからまる5年を数える森林の風の、当初からの念願であり、参加者94名全員で森林について考える場にできたことは、嬉しい限りでした。関係各位、ご協力いただいた方々に改めて感謝いたします。

[第1部]は、三重県環境森林部森林林業分野の西村文男総括室長とNPO法人森林の風の蒲田博会長によるあいさつで始まりました。

講演のトップバッターは、三重大学大学院生物資源学研究所共生環境学科緑環境計画学研究室の松村直人教授でした。1992年国連環境開発会議(リオデジャネイロ)以来の環境問題の世界的な流れ、日本の現状をわかりやすく端的に伝えていただきました。また、グーグルの衛星地図やGPS端末など新しい技術を使って大学演習林で大学生のみなさんが測量する様子などを見せていただきました。学生さんたちのいきいきとした様子が印象的でした。

二番目の講演者は林業の堀内宏樹社長でした。

江戸時代から続く家業を引き継ぎ経営される中で、経験し思うことをお話いただきました。新聞やテレビなどのメディアが伝えることが正確かどうか、本当はひとりひとりの目で確かめてほしい。たくさんの税金を注ぎ込んで間伐を行っているが、本当は台風や地すべり淘汰など自然の力でも木は倒れていくし、皆伐して植樹しなくても2、3年すれば緑でいっぱいになる。ということです。





後の質問票で、「放っておいてもいいというのが堀内氏の意見だが、やはり人の手は加えるべきだ」とのご意見がありました。限られた時間の講演で伝えきれなかったために出たご意見だと思いますが、森林管理をしなくてもいいという趣旨ではなく、それくらい日本の森林には本来的な豊かさがある、という主題でした。

三番目の講演者は 杣 Soma Planning の岡安保郎代表でした。森林が放置され昔のような維持管理ができなくなっている。それは、外国産の木材が入り国内の木材価格が下がっているから林業が立ち行かなくなっているためである。これまでは林業家や森林組合が主体者だったが、今後はどんな立場で担っていくのがよいのか。また、木を切らない、どこに森林を所有しているかも知らない、所有しているだけの森林所有者の問題がある。と提示していただきました。

最後の講演者はNPO法人森林の風の瀧口邦夫理事でした。まず森林の風の設立趣旨、活動内容の説明がありました。本題は、森林の風のベテランが初心者を指導しながら行われた26町歩の森林施行の記録です。昨年7月から8ヶ月間にわたるデータからは、1日の伐倒本数や燃料の使用量のグラフから上達具合が窺えました。今後の指導や、初心者研修の目安として活かされる貴重な資料となりました。表紙にも掲載しましたこの写真は、研修参加者の雄姿です。



[第2部]は、スペシャルゲストをお迎えし、その後質疑応答に入り、参加者からの意見もいただきました。



まず KOA 森林塾講師の島崎洋路先生に『甦らせられるか、日本の山』というテーマでお話をいただきました。以前は50万人いた林業就業者が5万人にまで減っている。高度経済成長期にはたくさん木を切り出して活況だった林業は、外材の輸入が始まって一気に需要がなくなった。今の木材価格は最低で林業はとても立ち行かない。担い手も減る一方である。しかし、経済成長期以降切り出さなくなった森林には今が切り時という木が多くあり、材積量が年々増えている日本の大切な資源で、活用しない手はない。森林予算は

少なく1兆円に満たないが、雇用の体制を整え、再び産業として成立するような政策が必要だ。資源を資源として活用できる人材を一刻も早く育てなければならない。というお話でした。

質疑応答では、伐採から更新完了までの期間が短くないか、下草が生えていない林床でも考えてあれば問題ないという話を詳しく聞きたい、など熱心な質問が多く、講師も真剣にお答えくださいました。また、不明確林地についての質問に対しては、県の西村総括室長自らが、「なんとかしたい、県としても全森林所有者に問い合わせるなど全力で対処しているところ」とご返答くださいました。

講師のみなさん参加者のみなさんともども、日ごろから森林と真剣に向き合い、考えておられる方々ばかりでした。こういった場に集い、志のメンテナンスができるのは素晴らしいことだと思います。



随想

「木ごころ、木づかい」

「荒廃した人工林を健全な森林にするには、間伐が必要である」という大義名分の下で、
 どんどん木を切っている。

速さ、多さを競うように切っている。倒れたときに快感すら感じることもある。

悪を倒す正義の味方のつもりだろうか。

切るということは、木にとっては死を意味する。木は、切られたとき声を出さない、悲鳴
 も上げない。

これが動物だったら、チェンソーが食い込んだときに「ギャー」と悲鳴を上げると思う。

木は黙っているから、何のためらいも感じない。

食前に「いただきます」といって手を合わせるのは、食べ物となった食材の命を「いただく」
 ことに対するものと教えられてきた。

山の神の祭事では、安全祈願というこちら側の都合を祈っている。

古代の日本では、山そのものを神としてあがめた。

悉有仏性 生きとし生けるもの全て仏になる。

このようなことを現代の日本人は忘れ去ってしまったのだろうか。

人工林は、人間が植えたのだから切るのもかまわない。と、いうていいのだろうか。

わが子を虐待する親と同じになってしまう。

木は何も言わない、表情も示さない。

動物のように脳はないが、間違いなく意思を持っていると思う。でなければ成長や進化を
 説明できない。

光を求めて真っ直ぐに伸び、光に届くと枝を四方に張り、葉を茂らせ、実を生らす。

実を甘く・硬くし、鳥が実を食べ、糞と一緒に落ち、遠くに新芽を生やし子孫を残す。

動物や人間社会と同様に、厳しい生存競争の中を生き抜こうとしている。

それぞれの木が命をつなぐため、それぞれの工夫をしている。

これから山に入るときには、そっと手を合わせ「いただきます」と心の中で唱え、深く頭を
 垂れる。

そんな態度で山に向おうと思います。

平成22年4月

櫻井龍彦

SIDE2. 年輪の話

何かの本を読んだ折に、
 記憶したものを思い出しながらご披露します。

* 年輪とは、仮導管の成長の差によって現れるものである。スギ、ヒノキ等の針葉樹は、春は成長が早い為、白く、柔らかく、幅が広い。夏は成長が遅い為、堅く、幅が薄い。

* 樹木の全てに年輪がある訳ではない。

落葉樹は年輪の無いものが多い…。これは、導管が円周上に並ばず拡散する為。(サクラ、ブナ、ポプラ等)但し環孔材(クリ、ケヤキ等)は年輪が有る。

* 年輪の幅は木の曲がり
 に影響されやすく、根株
 近くの年輪は、針葉樹では斜面の下側が広がる。

【岡島】

報告 Report 森林の風、信州伊那合宿活動記

【板垣】

4月25日（日）、26日（月）にかけて信州合宿を行いました。木曾駒ヶ岳を望む伊



ぎゅっとなつまった実生の檜の年輪

切り口はあまり見ないで…。



実生の檜の根は？

那市内にある島崎洋路先生の山小屋を基点にして、伐倒を中心に『山造り』の基本を技術と精神面から学び、確認し、そして、親睦を深める目的で行なわれました。

到着後、島崎山林塾前に集まった島崎先生と南信州林業の小笠原さん・佐々木さん、森林の風12名は、早速山小屋から200m程離れた檜林へ。

場所は間伐後約5年が経過した適度な檜林で、林床には実生の檜苗がびっしりと生え、樹齢の異なる檜が力強く根付いた森で、82歳を数えた島崎先生がチェーンソーを構えると腰がぴたっと決まります。植樹と実生では年輪の入り方が異なる事や、簡単なロープワークも印象的な話でした。

間伐指導後は島崎先生の案内の下、敷地内を全員で見学しました。間伐管理のタイミングの話などを聞きながら歩く林には、木彫りの標識が至るところに立っています。『安全な森林活動』にこだわってきこり人を育て続けた島崎先生の教えを改めて考える良い機会になりました。きれいに管理された林床の中で30m程度に育ったカラマツが美しく、森林作りを目指す者として、一つの理想形を見る思いで見学しました。

山での作業を終え、温泉・買出し・準備を経て宴会が始まりました。島崎先生と蒲田会長によるハーモニカの即席コンサートに聞き入り、行者にんにく等の食材やお酒に舌鼓を打って時は過ぎてゆきました。

その様な宴会の中でも一言だけといわれて語った島崎先生の『想い』～林業白書と現実のギャップを見逃すことなく減少の一途を迎える森林作業者の実態をどうにかしたい～は全員にバトンを渡されたように感じました。

最終日は信州大の演習林を島崎先生御自らご案内いただきました。

そこでは、島崎先生の代名詞とも言うべき『列状間伐』の誕生秘話も聞く事が出来ました。林道を作る為に木を伐採すると樹冠から空が見えるようになるがしばらく時間が経つと再び残った木々で枝を張り空が見えなくなる位まで成長する。ならば、道一本分位ならば細かい事を考えずに切っても問題ないのではないか、という所から到達した方法だそうです。

演習林内で行なわれていた木へのマーキング方法でも予め連番が振られたテープをタッカー（工業用ホチキス）で固定する方法を見せて頂き、既に向井F1の森で試用し好感触を得ています。

参加者がそれぞれ見聞きし考え、島崎先生の薫陶を受けた伊那合宿だったと思います。

SIDE3. 山菜ざんまい

島崎山林研修所で佐々木さんに出していただいた山菜料理の数々。

たいへん楽しませていただきました。

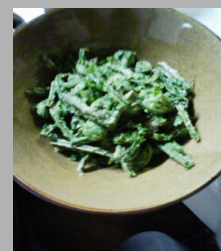
タラノメやコゴミはてんぷらに。

ギョウジャニンニク(ぎょうざ?・・・ではなく行者にんにくです)は、ニラのようなものです。きざんだところをきゅっきゅつともんでしょうゆをかけるだけ。

これが島崎先生のお好みだそうで、「酒を飲むとギョウジャニンニクが喰いたくなる。ギョウジャニンニクを喰うと酒が飲みたくなる。きりがねえんだな、これが。」



カンゾウのすみそ和え
オオバギボウシもすみそで。
どの山菜もみずみずしく、
歯ごたえはそれぞれ違うの
でいくらでも食べられます。



コゴミのみそマヨネーズ和え
【清水】

活動報告

—多度中間伐体験指導—

2010年4月26(月)・28日(水)

桑名市多度山中腹ヒノキ林

多度中学第1学年3クラス 83名

森林の風(指導員):8名



桑名市の受託事業として多度中学1年生を対象に環境学習を行いました。

森林の役割や間伐方法等の講義を受けてから実際に間伐に挑戦しました。

樹齢25年から30年のヒノキを各班二本ずつ間伐しました。木が倒れたところは空間ができて太陽の光が差し込みます。これが健全な森づくりの第一歩です。雨後のぬかるんだ斜面でしたが汗を流して林業のひとこまを体験し、健康な山づくりの大切さを実感してくれたことでしょう。【櫻井】

—常盤西小学校森林教室指導—

2010年5月16日(土)四

日市市立常盤西小学校・

学校林

みえぎん森倶楽部 5名

森林の風 6名

小学1~6年生とその保護者 約200名



3年目を迎えた「常盤西小学校森林教室」。学校林の小道の土止めを含め補修全般を行いました。今回はなんとっても親子200名が参加されるということで、みえぎん森林倶楽部の精鋭部隊の協力を得てなんとか無事終了できました。

階段づくりや実生の苗木の移動など、2時間にわたり森の再生活動の指導を行いました。校庭の裏にこんな雑木林があるのは幸せです。よく見ると樹種も多いし勉強になります。

今後も喜びを感じながら啓蒙活動を支えていきたいと思いました。【小坂】

森林の風にかかわるひとびと



森さんは会員でこそありませんが時々森林の風とともに活動されます。特技はなんといってもチェーンソーアートです。森林の風と書かれたこのふくろうは貯金箱にもなっているのですよ!

※ 森林の風 基本の定期活動・・・

第1・第3土曜日 → 矢の峰 / 第1・第3日曜日
→ 向井F1 / 第2・第4日曜日 → みえぎん まなびの森

編集後記

3月20日、小岐須での間伐訓練の帰り道、はじめて交通事故を起こしてしまいました。

とにかく一瞬のことで、なんで?こうなるのか理解するまでしばらく時間がかかりました。

幸いなことに車の全損ということで相手は鉄柱。少し痛い思いをしたのは自分だけ。他人に迷惑をかけなかったことにはなによりでした。(あの時滝口夫婦、水野さんにはいろいろお世話になりました。)

何がいたいかという、家をでてから無事家に戻るまで

【裏川】

が安全作業ということをよく認識したいと思います。自責の念をこめて。

機関紙は回を重ねるごとに話題が増えてきています。それだけ「森林の風」の活動が充実してきている証でもありません。それぞれの担当も増え伐到ばかりではなく人との交流や交渉事も益々増えるでしょう。今回、入会やら退会がありましたが残った者は「森林の風」の理念にベクトルを合わせて頑張っていきたいと思います。そしてこの会にふさわしい人材を探しましょう。